# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

本年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、7月末に文部科学省国立教育政策研究所から出された報告書を参考にし、いなべ市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組をまとめました。

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的とされています。しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。このことを十分考慮し、今後のいなべ市の教育の一層の充実を図ってまいります。

# I 教科に関する調査結果の分析について

# 1 小学校 国語

# 【よくできていた問題】

2 - (2) 本市の正答率:87.2% (全国の正答率:62.5%)

<問題の概要>

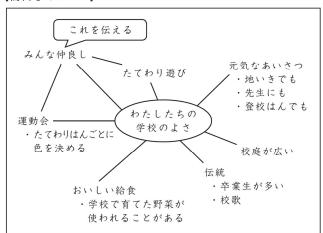
・問題文【高山さんのメモ】の書き表し方と して最も適切なものを4つの選択肢の中 から1つ選ぶ問題。

(正答 2)

### <出題の趣旨>

・情報と情報との関係付けの仕方、図など による語句と語句との関係の表し方を理 解し使うことができるかどうかをみる。

### 【高山さんのメモ】



# 2 三イ 本市の正答率:82.6%(全国の正答率:76%)

### <問題の概要>

・指定箇所(一イ)のひらがな表記部分を 正しい漢字の表記に直す問題。

(正答 投(げる))

### <出題の趣旨>

・<u>学年別漢字配当表に示されている漢字</u> を文の中で正しく使うことができるか どうかをみる。

#### 【高山さんの文章】

### みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを、なげるようにしています。

上級生が遠くからボールを<sub>イ</sub><u>な</u>げる

### 【課題となった問題】

1 二 (2) 本市の正答率: 45.6% (全国の正答率: 52.9%)

### <問題の概要>

・問題文【オンライン交流の様子の一部】の中で、 村木さんの発言を受け、返答した和田さんの話し 方の工夫として適切なものを選択する問題。

### (正答 2)

### <出題の趣旨>

・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

### <解答状況>

- ・解答類型1は、誤答の中で最も割合が高く、34.3%であった。34.3%であった。和田さんが、相手が興味たことに気付いてもってとはできれることはできなが、所意したことを提えるられるができなかったと考えらんに届いたメールの内容】を引用して話していると捉えた児童の話を受け止めていると判断した児童もいたと考えられる。
- ・次いで高いのは、解答類型 4 で、17.1%だった。和田さん

が、自分の体験を加えて話していることを捉える ことはできていたが、相手が興味をもっているこ とに気付いたことを捉えることができなかったと

3 2 1 相 相 相 相 手 が が 豳 囮 豳 豳 味 味 味 味 をも 7 7 な な る ることに 気づ 気づ 気づ 気づ き き き 用 相 自 言 意 手の の体 言葉 意 を 験を 味 引 物を示 説 用 明 ż て話 なが 話

海風小学校 深緑小学校 村木さん はじめまして。 はじめまして. 深緑小学校の村木 海風小学校の和田 です。今日は、 とても楽しみに です。よろしく お願いします。 していました。 メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、 海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、 読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなど 読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことが ない分野の本を読みました。 せっかく教えてもらったのですが、だれが 何をしているのかが分からなくなったので、 もう一度教えてもらえませんか。 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。 図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントを してくれます。私もクイズに参加しました。今まで 読んだことがない分野の本を読むことができました。 よく分かりました。おもしろそうですね。 そうなんです。先月の読書イベントでは、 図書委員がさまざまな分野から本を選び、 本の内容からクイズを出題してくれました。 これが、実際に出題されたクイズが書かれたカード です。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。 本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。 次に、私たちの学校の給食についてしょうかいしたいの

イン交流の様子の

部



考えられる。この中には、村木さんの発言⑥が「よく分かりました。おもしろそうですね。」と短い発言であったことなどから、村木さんが和田さんの話した内容に興味をもっていないと捉えた 児童もいたと考えられる。

海風小学校 和田さん

はじめまして。 海風小学校の和田

です。よろしお願いします。 よろしく

深緑小学校 村木さん

ない分野の本を読みました。

メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、タイズなどをして、初もそれたました。

もう一度教えてもらえませんか。

説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。 図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントを してくれます。私もクイズに参加しました。今まで

読んだことがない分野の本を読むことができました。

~ (交流が続く) ~

せっかく教えてもらったのですが、だれが 何をしているのかが分からなくなったので、

よく分かりました。おもしろそうですね。

はじめまして。

深緑小学校の村木

です。今日は、とても楽しみに

していました。

# |1| 三 本市の正答率:52.3%(全国の正答率:63.8%)

### <問題の概要>

・オンラインで交流する場面において、【和田さんの メモ】がどのように役に立ったのかを説明したも のとして、適切なものを選択する問題。

### (正答 4)

### <出題の趣旨>

・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係 付けたりして、伝え合う内容を検討することがで きるかどうかをみる。

### <解答状況>

・本設問の正答率は 52.3%であった。目的や意図に 応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりし て、伝え合う内容を検討することに課題があると考

えられる。

・22.9%と、誤答の中で最も 割合が高い解答類型3は、 自分の学校の「地いきなら ではの取り組み」に関係す る情報を整理しているこ とを捉えることはできて いたが、複数の情報をまと めて伝えていることを捉 えることができなかった と考えられる。この中に は、発言⑤の文章を、事実 と感想を区別して伝えて いると捉えた児童もいた と考えられる。

複数の情報をまり 事実と感想とをロー 相手の学校の 複数の情報をまど 事自 地 区一別地 とめて伝えることができた。「地いきならではの取り組み」 別して 部 をふり返り も適切なものを、発言⑮のとこ る情報を整理 1から4までの中から【和田さんのメモ】が

そうなんです。先月の読書イベントでは、 図書委員がさまざまな分野から本を選び、 本の内容からクイズを出題してくれました。 Ξ 一っ選んで、その番号を書きましょう。役に立ったことに改めて気づきました。そ役に立ったことに改めて気づきました。そ これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。 本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。 ぜひやってみます。 私たちの学校の給食についてしょうかいしたいの お願いします。 アイデア給食というものがあります。年2回、自分 かったか考えたこんだてが登場します。海に近くて、魚がたくさんとれるので、魚料理などを考えます。みんなでアイデアを出し合ったこんだてが登場するので、アイデア 給食と呼んでいます。 みんなで考えたこんだてが出るなんてうらやましい です。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで 給食を食べます。 みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。 はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの 学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い 学校は、海に近いということですが、他! 学校ならではの取り組みはありますか。 えっと… (【和田さんのメモ】を見返す)、二つあります。 総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。 ニっもあるのですね。ぜひ、一つ一つくわしく

・解答類型2は18.3%あり、複数の情報をまとめて 伝えていることを捉えることはできていたが、自分

の学校の「地いきならではの取り組み」に関係する情報を整理していることを捉えることができ なかったと考えられる。この中には、【和田さんのメモ】を見て、和田さんが相手の学校の「地い きならではの取り組み」に関係する情報を整理したと捉えた児童がいたと考えられる。

# 2 二 本市の正答率:55.7% (全国の正答率:56.6%)

# <問題の概要>

・問題文【高山さんの文章】の中で、自分が高山 さんならどう書くかを、3つの条件を満たしな がら書く問題。

### (正答例)

・「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるところだと思います。(100字)

## <出題の趣旨>

・<u>目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区</u> 別して書くなど、自分の考えが伝わるように書 き表し方を工夫することができるかどうかを みる。

### <解答状況>

・3つの条件とは、以下のとおりである。

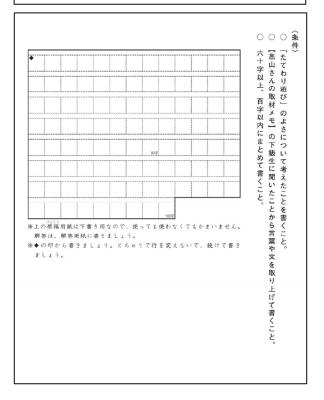
条件 1 …「たてわり遊び」のよさについて考え たことの記述

条件2…資料をもとにした記述

条件3…字数制限

・本設問の正答率は55.7%であった。「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いていない解答類型4が35.8%と高いことからも、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。中には、書く目的や意図が明確ではなく、「たてわり遊び」のよさについて書く必要があることを認識していなかった児童がいたと考えられる。また、「たてわり遊び」のよさを認識

	容え
みんな仲良し「たてわりはん」	をたとっ
わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、	のた
同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。	よて
「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良く	うわ
なります。	にりき
「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、	書 遊 き き ま
3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり.	
下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。	i
「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生	· *
といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。	an3 &
このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになる	と 書 .
ところだと思います。	との条
「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ	件シン
活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを	15} L
下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジ	合て「
ボールでは、上級生が遠くからボールを、なげるようにしています。	# #
1-	わせて
	書。
	書きまし
	した
	ょがう高
山さんの取材メモ】	の品の出
「たてわり遊び」について	h .
6年生がくふうしていること	なら
○遊びたいことを下級生に聞く	Ν.
○ルールをくふうする	
ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる	
ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる 下級生に聞いたこと	
下級生に聞いたこと ○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった	
下級生に聞いたこと	lc A



しているものの、そこから自分の考えをもつことができず、事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまった児童がいたと考えられる。さらに、「運動会」や「ルール」についてなど、この段落において本来書く内容ではないことを取り上げて書いた児童もいたと考えられる。

# 2 三ア 本市の正答率:48.3% (全国の正答率:43.4%)

### <問題の概要>

・問題文【高山さんの文章】の中で、 指定箇所(一ア)のひらがな表記 部分を正しい漢字表記に書き直 す問題。

### (正答 競技)

### <出題の趣旨>

・<u>学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこ</u> とができるかどうかをみる。

### <解答状況>

・誤答で最も割合が高いのは、解答 類型 99 (「競」も「技」も書けな かったもの)で 19.3%。次いで高 いのは、解答類型 2 (「競」と解答 しているが、「技」と解答してい ないもの)で、14.7%。3番目に 高いのは、解答類型 3 (「競」と解 答していないが、「技」と解答して いるもの)で、13.5%だった。

#### 【高山さんの文章】

### みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。 「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを<sub>イ</sub>なげるようにしています。

アきょうぎの作戦を考えたりします。

・誤答「競争」「球技」からは問題文の捉え違いや、前後の文脈から「きょうぎ」の意味を捉えられていないと考えられる。また、誤答「供技」「協技」からは熟語としてのまとまりや意味を理解できていないこと、そして、「協議」と混同するなど同音異義語へのつまずきがあると考えられる。同音異義語へのつまずきは、昨年度の正答・誤答の傾向からも読み取れる。

### 【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- ○図などを用いた情報と情報、語句と語句の関係の表し方を理解することはできている。
- ○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことはできている。
- ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。
- ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。
- ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように書き表し方を 工夫することに課題がある。
- ●学年別漢字配当表に示されている漢字の意味を理解し、文の中で正しく使うことに課題がある。

# 【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

## ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する

資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識 し、どのような資料を用意すればよいかを考えることや、実際に話す場面では、聞き手のうなず きや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切である。

指導にあたっては、音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などには、資料を使いながら話す方がより伝わりやすいことや、どのような資料を用意すれば、より聞き手に伝わるのかと考えられるような活動を取り入れたい。その際、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間の設定も大切にしたい。

また、実際に交流する場面では、聞き手のうなずきや表情などの反応にも目を向け、適切な時間や機会を判断し表現することのよさに気付かせていくことが大切である。その際、聞き手の反応を見ながら表現している様子を、映像ややりとりのモデルなどで確かめたり、実際に交流する前に、聞き手の反応を確かめながら表現できるよう、やりとりの練習を行ったりする活動を取り入れたい。

# ◇目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する

伝え合う内容を検討する際には、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが大切である。

指導にあたっては、伝え合う内容を検討する際に、自分が伝えたいことと聞き手の求めている ことに応じて情報を整理できるようにする。そして、学習活動を振り返る場面を設定し、情報を 整理することのよさや、目的や意図に応じた内容になっているかどうかを考えられる学習活動を 取り入れたい。さらに、振り返りの中での気付きを共有し、理解を深められるようにしたい。

### ◇事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

事実と感想、意見とを区別して書くためには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と 感想や意見との関係を十分捉えて書くことが大切である。また、事実と感想、意見とを明確に区 別して書くためには、文末表現に注意して書くことが大切である。

指導にあたっては、書いた文章を振り返る活動の中で、文章全体に一貫性があるか、文末表現 に注目して事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかを確かめ られるように、文章の具体例を提示しながら指導していくことが有効である。さらに、事実や考えが不足している時は、児童どうしで伝えたいことを交流した上で、書いた文章を読み合い確かめる活動を通して、読み手の立場に立って考えることができるようにしていきたい。また、事実と考えを区別して書くことができていない時には、主語や文末表現を意識して文章を見直すように個別指導することも大切にしていきたい。

### ◇文や文章の中で、漢字を正しく使う

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが大切である。

指導にあたっては、漢字学習に付け加え、漢字がもつ意味の理解や、語彙の獲得に取り組んでいきたい。そのために、文章読解の際、前後の文脈をもとに、文中の言葉がどのような意味を指すのかを判断する練習をしたり、国語辞典や漢字辞典を引いて文中の言葉の意味を確認したりするなど、単語へのこだわりをもった指導をおこなっていきたい。

# 2 小学校 算数

# 【よくできていた問題】

# 11(2)本市の正答率:86.5%(全国の正答率:88.5%)

## <問題の概要>

はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ問題。

(正答:イ □+38=62)

$$7 62 + 38 = \square$$

$$1 \Box + 38 = 62$$

$$\dot{}$$
  $\Box$   $-62 = 38$ 

$$\Box$$
 - 38 = 62

## <出題の趣旨>

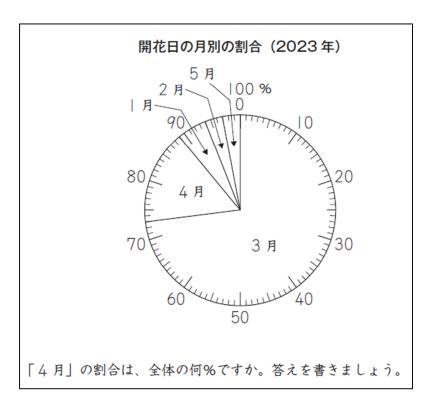
・数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる。

# 5 (1) 本市の正答率:82.9%(全国の正答率:80.8%)

# <問題の概要>

円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く問題。

(正答例:16%)



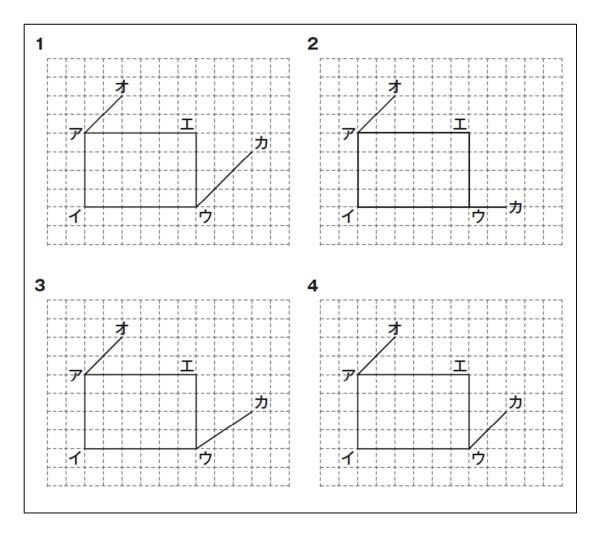
### <出題の趣旨>

・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる。

# 3 (1) 本市の正答率:85.3% (全国の正答率:85.5%)

# <問題の概要>

作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選ぶ問題。(正答例:4)



# <出題の趣旨>

・直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる。

# 【課題となった問題】

## 3 (3) 本市の正答率: 41.3% (全国の正答率: 36.5%)

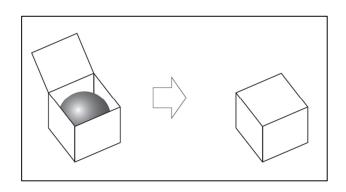
### <問題の概要>

・直径 22 cmのボールがぴったり入る箱の体積を求め る式を書く問題。

(正答: 22×22×22)

### <出題の趣旨>

・球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉 え、立方体の体積の求め方を式に表すことができ るかどうかをみる。



#### <解答状況>

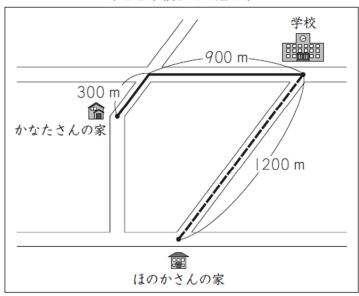
・解答類型 7「3.14を用いた式を解答しているもの」は、いなべ市では 16.2%であった。円の計算であることから「直径」と「3.14」を使おうとしたためであると考えられる。「ぴったり」という言葉がヒントとしてあり、体積を求める問題であるが、5年生で円周を求める式の学習をしており、「直径×3.14」が強く残っていたといったことも考えられる。何を問われているのかを正しく把握し、問われていることに対応した立式ができる力が求められると考える。

# 4 (3) 本市の正答率:30.6%(全国の正答率:31.0%)

### <問題の概要>

・家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを 判断し、そのわけを書く問題。

(正答:かなたさんが歩いた道のりは 900+300=1200 で 1200mです。だから、かなたさんの歩く速さは、 $1200\div20=60$  で、分速 60mです。ほのかさんの歩く速さは、 $1200\div24=50$  で、分速 50mです。つまり、速いのはかなたさんです。)



家から学校までの道のり

### <出題の趣旨>

・<u>道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる</u>かどうかをみる。

### <解答状況>

・正答を選ぶことはできてはいるものの、わけを書くときに2つの条件の片方が欠けた記述が多かったこと、道のりや速さを基にせず道の形状で判断した記述が多いこと、番号は選んでいるものの、わけが無解答であることが正答率の低さにつながっていると考えられる。道の形状で判断した記述の中には、曲がり角が少ないから、一直線だから、といったように図から読み取ったことを理由に挙げて書かれているものが多かった。

# 5 (4) 本市の正答率: 42.2% (全国の正答率: 49.3%)

### <問題の概要>

・示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く問題。 (正答: ⑦3、②18)

3月 16 日から3月 19 日までの最高気温の予報							
日にち	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日			
最高気温 (度)	:高気温(度) 21 20 15		14				

最高気温	の数値をたしていった答えか	、初めて 600 以上に
なる式は、	•	だから、
桜の開花予	想日は3月 ② 日です。	

- **1** 549 + 21
- **2** 549 + 21 + 20
- **3** 549 + 2| + 20 + |5
- **4** 549 + 2| + 20 + |5 + |4

# <出題の趣旨>

・ <u>示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断で</u>きるかどうかをみる。

### <解答状況>

・正答の「3」を選ぶことはできているが、桜の開花予想日を読み取れていない(解答類型2、3)が17.5%であった。「桜の開花予想日の求め方」を正しく理解し、表を読み取り、読み取った数値を用いて計算するという手順を正確に行っていかないと答えにはつながらないため、正答率が低かったのではないかと考える。また、⑦は式を1から4の選択肢から選ぶ問題であり、②は桜の開花予想日の日にちのみを答える問題であるため、どこに何を書けばよいか、問題の答え方がわからないという間違いもみられた。

### 【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- ○数量を□などを用いて表したり、その関係を式に表したりすることはできている。
- ○直方体の見取り図について理解し、辺と辺が平行で長さが等しいことを理解できている。
- ○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができている。
- ●球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに 課題がある。
- ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
- ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する ことに課題がある。
- ●示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書くことに課題がある。

# 【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

# ◇球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるようにする

図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えることができるようになることが 大切である。

指導にあたっては、球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができることを知る活動が考えられる。その際、実際に立方体の中に球を入れたものを準備し、視覚的に球の直径の長さと立方体の一辺の長さが同じであることに気づかせたい。また、立方体の一辺の長さが、ボールの直径の長さと等しくなることを捉え、立方体の体積を求めるには円周率は必要がないということを判断できるようにしたい。立方体の体積は、一辺の長さを図ることによって一辺×一辺×一辺の式で求められることも同様に理解させたい。

# ◇道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述で きるようにする

場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが大切である。本調査の設問4(3)では、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を述べることができるかが焦点であった。本市においては、どちらが速いかを選ぶことはできたが、理由を述べることに難しさを感じていたと考えられる状況であった。

指導にあたっては、二人の歩く速さの比べ方を考える活動を行い、速さを比べるときには、 道のり:時間を用いて速さを求めることを確認したい。また、道のり、時間、速さを求める式 の使い方を学び直し、比べるものによって式を使うことができるようにすることが大切である。 そのために、例えば、①時間が等しく道のりが異なる場合、②道のりが等しく時間が異なる場 合、③道のりと時間が異なる場合といった3つの場合を提示し、速さを比べる活動を行うとい ったように、比べるものや知りたいことを洗い出し、求められるよう練習する場を作りたい。 また、使い方を知った上で、記述の際に必要な部分を落とさずに書けるような学習活動を工夫 したい。

# ◇折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるようにする

日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要である。その時に、グラフのどの部分を基に必要な情報を読み取ったかを文章や言葉で表現できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、本調査の設問5(3)のグラフを用いて、3月の回数と4月の回数の折れ線グラフを見て、読み取れることを話し合ったり、伝え合う活動を行いたい。その時に、グラフの傾きや重なりなどに着目して、データの特徴や傾向を読み取ったり、数値を読み取って回数を比較したりといったことができるようにしておきたい。また、グラフのどの部分を基に判断したのかを自分の言葉で相手に伝わるように話すことができるようにしたい。

# ◇示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるようにする

問題を解決するために、必要な数値を用いて処理をしたり、その結果を式に表したりすることができるようにすることが大切である。

指導にあたっては、本調査の設問5(4)を用いて、「桜の開花予想日の求め方」に基づいて開花予想日を求め、説明する活動が考えられる。その際には、「桜の開花予想日の求め方①、②」を確認し、既にある情報を整理し、600以上になるためにあといくつ必要かを導くための計算方法を確かめることが大切である。例えば、「桜の開花予想日の求め方」を文章ではなく、式に置き換えて考える。3月16日の場合は、これまでの最高気温の数値をたした549に3月16日の最高気温である21を足すと「549+21=570」といったように、具体的な式を使って説明ができることを示す。1つ例示することで、この後の日付を求めるための式を考えることができる。このように、既にある情報を自分で整理し、必要な数値を用いて処理したり、式に表したりすることができるような学習活動の工夫をしていきたい。

# 3 中学校 国語

# 【よくできていた問題】

2 二 本市の正答率:76.1% (全国の正答率:75.2%)

<問題の概要>

- ・本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する問題。 (正答 2)
- <出題の趣旨>
- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

3 — 本市の正答率:81.8% (全国の正答率:81.4%)

<問題の概要>

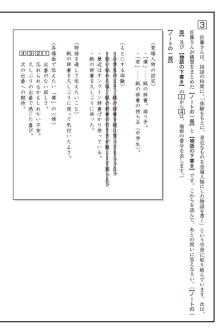
・複数の情報の中から、2つの情報を選択した 意図を最も適切に説明しているものを選択 する問題。

(正答 3)

### <出題の趣旨>

・<u>目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、</u> <u>伝えたいことを明確にすることができるか</u> どうかをみる。





|4| 三 本市の正答率:77.8%(全国の正答率:75.6%)

<問題の概要>

・運筆の説明について、最も適切なものを選択する問題。 (正答 1)

### <出題の趣旨>

・行書の特徴を理解しているかどうかをみる。



# 【課題となった問題】

## 1 三 本市の正答率: 42.9% (全国の正答率: 44.0%)

<問題の概要>

・話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択す る問題。

(正答 3)

#### <出題の趣旨>

・<u>意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかを</u> みる。

### <解答状況>

- ・解答類型1、2、4と解答した生徒は57.1%であった。このように解答した生徒は、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに課題がある。
- ・特に多かった解答類型4の生徒は、傍線部分③の発言の中の「ので」 という接続助詞の働きを理解することができず、「おすすめの本には、 その本をすすめる人の好みや考えが反映されている」という部分が事 実、「自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という部分が 具体例であると誤って捉えたものと考えられる。

三 【話し合いの一部】の――縁部③「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。
2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
3 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。
3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。

# 2 一 本市の正答率: 32.6% (全国の正答率: 36.3%)

<問題の概要>

・本文中の図「さまざまな形の葉」の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題。

(正答 1、2)

#### <出題の趣旨>

・文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。

#### <解答状況>

- ・解答類型2、3と解答した生徒は57.9%であった。このように解答した生徒は、文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。
- ・解答類型2の生徒は、図「さまざまな形の葉」と第一段落とを結び付けて読むことで、読み手が 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう、補助する役割をもつことを捉えている。 一方、第二段落で筆者が例示している「さまざまな形容」と結び付けて読むことで、実際にどの ような形なのかを、読み手が具体的に捉えることができるようにする役割をもつことを捉えてい ないと考えられる。
- ・解答類型3の生徒は、図「さまざまな形の葉」と第二段落で筆者が例示している「さまざまな形容」とを結び付けて読むことで、実際にどのような形なのかを、読み手が具体的に捉えることができるようにする役割をもつことを捉えている。一方、第一段落と結び付けて読むことで、読み手が実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう、補助する役割をもつことを捉えていないと考えられる。

### 【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- ○具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。
- ○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることについて理解して いる。
- ○行書の特徴を理解している。
- ●意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに課題がある。
- ●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。

# 【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

# ◇意見と根拠など情報と情報との関係を理解し、話や文章の中で捉える

相手の考えを理解したり、自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解することが大切である。

指導にあたっては、意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるようにしたい。

例えば、テーマを決めて互いの考えを伝えるなどして話し合う際には、意見とその根拠を示して発言することができているかなど、発言を振り返る学習活動を位置付けることが考えられる。その際、具体的な発言を取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、示した根拠が意見を支えるものになっているかどうかを確かめたりする学習活動を取り入れたい。

### ◇文章と図表などを結び付け、内容の理解に生かす

図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが大切である。

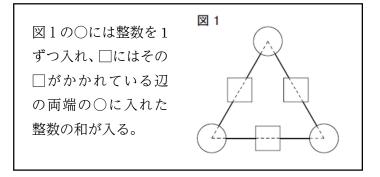
指導にあたっては、例えば、パンフレットや雑誌の記事、ウェブサイトに示されている絵、 文章など、実生活の中にあるものを教材として取り上げ、文脈を踏まえた上で図表などがもつ 役割について考える学習活動を取り入れたい。その際、図表などが文章中にある場合とない場 合とを比較し、図表などが示されていることによって何がどのように分かりやすくなるのか具 体的に説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えるようにしたい。

# 4 中学校 数学

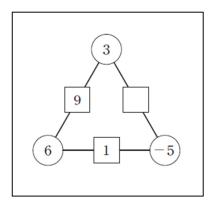
# 【よくできていた問題】

6 (1) 本市の正答率:90.8%(全国の正答率:90.4%)

<問題の概要>



・図の□に入る整数を求める問題。(正答 -2)



### <出題の趣旨>

・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正負の数の加法の計算ができるかどうかをみる。

# 7 (1) 本市の正答率:81.1% (全国の正答率:74.8%)

<問題の概要>

・実験で得たデータから最頻値を求める問題。(正答 1.9)

## 10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果

1.5	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4

(単位:cm)

### <出題の趣旨>

・与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる。

# 【課題となった問題】

## 8 (2) 本市の正答率: 22.3% (全国の正答率: 17.7%)

### <問題の概要>

・ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフから、ストーブを「強」で使用した場合と、「弱」で使用した場合について、18ℓの灯油を使いきるまでの使用時間の違いを説明する問題である。設問は、式を用いて説明するか、または、グラフを用いて説明するかを選択した上で、使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明させるものである。

#### (正答例)

・アを選択した場合:「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に y = 0 を 代入し、x の値の差を求める。

#### <出題の趣旨>

・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

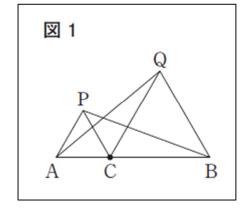
### <解答状況>

- ・この設問では、説明に用いるものが式またはグラフのどちらであっても「y=0の時のxの値の 差」と説明することになる。ポイントは「y=0」「y座標が0」に注目することであるが、誤答 の多くは、それができていないものであった。
- ・日常の授業等では、グラフの交点を求めたり、連立方程式の解を求めたりする単純な計算について習熟させることはできているが、この設問のように「問題解決の方法を数学的に説明する」ことについては、十分に経験させていないと思われる。
- ・無解答率が13.2%と高い割合であった。

# |9|(1) 本市の正答率:28.9%(全国の正答率:26.5%)

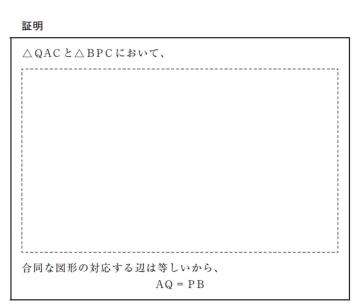
#### <問題の概要>

・点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 AQ=PBであることを、△QAC≡△BPCを示すことで証明する問題。



### <出題の趣旨>

・筋道を立てて考え、証明することが ことができるかどうかをみる。



### <解答状況>

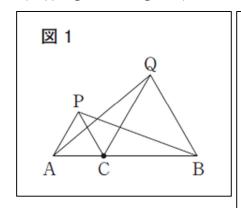
・三角形の合同を証明するこの設問では、合同条件「2辺とその間の角がそれぞれ等しい」を用いるのだが、∠ACQ=∠BCPであることが根拠をもって説明できるかどうかがポイントとなる。 誤答の多くは、その部分の説明が不十分であったり、できていなかったりするものだった。設問 に「△QAC≡△BPCを示すことで証明できる」と、証明の方向が明示されているにもかかわ らず、無解答率が 29.2%と高いのも特徴として挙げられる。

# 9 (2) 本市の正答率:24.9% (全国の正答率:27.4%)

### <問題の概要>

・図1で、 $\angle A$ QCと $\angle B$ PCの和についていえることを、 $\boxed{1}$ と $\boxed{2}$ を埋めて完成させる問題。

(正答 ① ウ 、② ウ)



○ 点 C が点 A と中点 M の間にあるとき、
 ∠ A Q C と ∠ B P C の和は ① 。
 ○ 点 C が中点 M と点 B の間にあるとき、
 ∠ A Q C と ∠ B P C の和は ② 。

上の ① 、② のそれぞれに当てはまるものを、下の アからエまでの中から1つずつ選びなさい。

- ア 60°より大きい
- イ 60°より小さい
- ウ 60°になる
- エ 60°より大きいことも小さいこともある

### <出題の趣旨>

・<u>事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす</u> ことができるかどうかをみる。

### <解答状況>

・①をアと誤答した割合が 23.1%、イが 25.3%、エが 5.2%であった。つまり、 $60^\circ$  ではないと解答した割合は 53.6%であった。また、②をアと誤答した割合は 16.9%、イが 20.6%、エが 10.9% で、計 48.4%が  $60^\circ$  ではないとした。この設問で取り上げられた図形の場合、 $\angle AQCE \angle BPC$  のそれぞれの大きさは点Cの位置によって変化するが、その角の和は常に  $60^\circ$  になり、①、②ともに正答はウである。これは、設問(1)で証明した $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ より、常に $\angle AQC + \angle BPC = 60^\circ$  であることが成り立つからであるが、その新たな性質を見いだすことができなかったと考えられる。

### 【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- ○簡単な場合について、確率を求めることはできている。
- ○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正負の数の加法の計算をすることはできている。
- ○与えられたデータから最頻値を求めることはできている。
- ○二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することはできている。
- ○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することはできている。
- ●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて 説明することに課題がある。
- ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- ●筋道を立てて考え、証明することに課題がある。
- ●事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだ すことに課題がある。

# 【課題となった内容に対する今後の取組の方針】

◇データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにするためには、判断の根拠を箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、日常生活や社会の事象を題材とした具体的な問題などを複数取り上げ、 統計的に問題解決するという経験を積ませることを大切にしたい。またその際、問題を解決す るために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、読み取っ たデータの特徴を根拠としてよいかどうかを考えるなど、その結果を基に批判的に考察し判断 するという一連の活動も充実させていきたい。

◇事象を数学的に解釈し、問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする 数学を活用して、様々な問題を解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて 問題解決する場面を設定し、それらをどう用いたかについて数学的に説明できるようにすることが大切である。

指導にあたっては、例えば本調査の設問8(2)のように、日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして、表、式、グラフを相互に関連付けて考察するなど、具体的な場面において事象を単純化して、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決できるようにしていきたい。さらに、その解決の過程や結果を振り返り、新たな問題を見いだすなど、日常生活や社会の事象の考察や問題解決に数学を活用しようとする態度を育成していきたい。

### ◇筋道を立てて考え、証明することができるようにする

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて 仮定から結論を導くときの「推論の過程」を数学的に表現できるようにすることが大切である。 本調査の設問9 (2) では、AQ=PBを導くために△QAC≡△BPCを示せばよいとい うことになるが、 $\triangle$ QACと $\triangle$ BPCにおいて対応する辺や角の大きさについて分かることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見いだしたりすることが「推論の過程」として重要になる。その際、AQ=PBは結論であり、三角形の合同条件の根拠として用いることはできないことを確認することや、 $\angle$ PCQや正三角形の一つの内角の大きさが60°であることに着目して $\angle$ ACQ= $\angle$ PCBであることの根拠を見いだすことが鍵となる。

指導にあたっては、三角形の合同の根拠となる要素について、仮定あるいは既に明らかになっている事柄なのか、改めて説明が必要な事柄なのかを判断できるようにするために、比較的容易な問題から複雑な問題へと段階を踏みながら経験させること大切にしていきたい。

# ◇事象を図形に着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるようにする

本調査の設問9 (3) のように、問題で与えられた最初の条件を保ったまま動かした図形を 観察し、既に証明した事柄を振り返り、新たな性質を見いだす活動を取り入れることが大切に なる。

指導にあたっては、図形の性質を考察する場面を設定し、観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見いだし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現できるようにする。また、条件を変えても成り立つ事柄を見いだすなど、統合的・発展的に考察できるように指導することが大切である。その際、1人1台端末等を活用して、それぞれの生徒が図形を操作して成り立つと予想される図形の性質を見いだす活動を取り入れていきたい。さらに、正三角形から二等辺三角形や正方形など他の図形に変えた場合はどうなるかを考えるなど、統合的・発展的に考察できるようにすることも大切である。こうした活動を通して、自ら条件を変えた場合について考察しようとしたり、数量や図形の性質を成り立たせる本質的な条件を見いだそうとしたりする態度を育てていきたい。

# Ⅱ 児童生徒質問調査の回答状況より

児童生徒質問調査の中から、いなべ市学校教育目標「いなべの明日を担う 心豊かで たくましい子 どもの育成」に関わる項目について、その回答状況を三重県及び全国の結果と比較してまとめました。

<小学校> 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
自分には、よいところがあると思いますか	88.7	+6.3	+4.6
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくら いありますか	94.1	+2.0	+2.4
将来の夢や目標を持っていますか	85.4	+3.8	+3.0
人が困っているときは、進んで助けていますか	95.6	+2.5	+2.9
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4	+0.3	+0.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思います か	83.3	-0.5	-0.2
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から 取り組んでいましたか	84.8	+3.5	+2.9
学習した内容について、分かった点や、よく分からなか った点を見直し、次の学習につなげることができていま すか	83.6	+2.7	+2.8
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	85.1	+1.1	+1.4
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか	89.3	+7.1	+5.1
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.7	+0.2	-1.1

**<中学校>** 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
自分には、よいところがあると思いますか	87.2	+3.4	+3.9
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくら いありますか	91.5	+0.9	+1.7
将来の夢や目標を持っていますか	66.6	-0.9	+0.3
人が困っているときは、進んで助けていますか	94.9	+4.5	+4.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.8	+0.3	+0.6
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思います か	84.1	+6.4	+8.0
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から 取り組んでいましたか	88.9	+6.5	+8.6
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	85.9	+6.7	+8.0
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	87.5	+6.8	+8.5
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し 合い、互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決め ていますか	94.6	+8.2	+8.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	84.4	+6.8	+8.2

## 【まとめ】

小学校、中学校とも、ほぼすべての項目について、肯定的な回答率が高い値となっており、全国 や三重県と比べても高くなっている。特に、授業の中で自分で考え、自分から取り組んだり、授業 で学んだことをほかの学習へ生かしたりすることがよくできている。

また、令和5年度に比べて、「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、小学校は、4.8 ポイント、中学校は、6.4 ポイント高くなった。

いなべ市が目指す、「子どもが Agency を発揮し Well-being 溢れる学校づくり」が推進されている 大きな成果といえる。

# Ⅲ 学校質問調査(小学校)の回答状況より

学校質問調査の結果から、全国の回答状況と比較して特に差の大きかった項目についてまとめました。 今後は、強みはさらに伸ばし、弱みを少しでも克服するための取組を行っていきます。

【強み】80%以上の学校が肯定的に回答し、全国との差が+10ポイント以上となった質問項目

NO	質問事項	いなべ市	全国差
25	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、 自分から取り組むことができていると思いますか	100.0	+11.8
27	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、 資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができ ていると思いますか	100.0	+12.8
33	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、 表現するなどの学習活動を取り入れましたか	100.0	+10.7
41	調査対象学年に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報 の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し 使うことができるような指導を行いましたか	100.0	+10.0
68	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	81.8	+17.8
72	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童 が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活 動を行いましたか	100.0	+10.3

# 【弱み】 肯定的に回答した学校が80%未満で、全国との差が-10ポイント以上となった質問項目

NO	質問事項	いなべ市	全国差
7	調査対象学年の児童は、授業の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	63.6	-21.9
17	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、 まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	72.8	-17.2
18	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加 を含む)	72.7	-13.7
22	今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、 提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか	72.8	-18.2
24	ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか	36.4	-53.7
52	学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己 研鑽の機会を十分に設けていますか	63.6	-11.2

# Ⅳ いなべ市の取組について

### 1 小中一貫教育の推進

義務教育の9年間の学びと育ちを見据え、発達段階や教育上の課題に応じた、一貫性のある系統 的かつ継続的な学習指導や生徒指導を、小中一貫教育を手法として進めていきます。

### 2 市学力調査の実施

市の学力調査を実施して、学力の定着状況を明らかにし、児童生徒の「強み」「弱み」に基づいた効果的な学習指導の在り方を検証していきます。

# 3 指導主事等による学校訪問

教職員の指導力向上を図るため、指導主事や学力向上特別指導員を派遣し、授業改善のための指導・助言を行います。

## 4 教職員の研修

いなべ市教育総合研究所による研修講座を充実させ、教員の指導力等の向上に努めるとともに、いなべ市教育研究会と連携して研究・研修活動の充実を図っていきます。

# V 各学校における学力向上の取組について

# 1 学級集団づくり

自尊感情や学習意欲の向上を図るため、その土台となる学級集団づくりに取り組みます。特に、 年間2回実施しているQ-U(学級満足度調査)を活用し、一人ひとりの規範意識を高めるとともに、 友だちに寄り添い、互いに高まり合える学級集団づくりを進めていきます。

### 2 授業改善を核とした学力向上の取組

校内及び校区で「授業づくり研修」を行い、指導の在り方を検討したり、新しい授業方法に挑戦 したりしていきます。また、市の「学力充実推進計画」に基づいて各校が「学力向上アクションプ ラン」を立て、計画的な取組を推進していきます。

### 3 学力調査の分析と活用

全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、市の学力調査の結果をもとに、児童生徒の学力状況を細かく分析し、明らかになった課題を克服するための取組を推進します。

### 4 生活習慣づくり

児童生徒の健やかな成長のため、規則正しい生活習慣づくりに努めます。学習習慣の定着や、メディアとの接触及び携帯・スマートフォンの使用における家庭でのルールづくり等について、学校・保護者・地域と連携した取組を実施していきます。